

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名		荒川ふるさと文化館管理運営費		部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
				担当者名	小坂 潤矢	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）		荒川ふるさと文化館管理費（45 - 78 - 50 - 01） 荒川ふるさと文化館一般運営費（45 - 84 - 33 - 01）					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 19年度 ○ 18年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業						
開始年度	○ 昭和 ● 平成 10 年度			根拠 法令等	荒川区立荒川ふるさと文化館条例		
終期設定	○ 有 ● 無 年度						
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準				計画区分	○ 計画 ● 非計画	
行政評価 事業体系	分野	文化創造都市[]					
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]					
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]					
目的	常設展示や特別展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連等の事業、情報提供等を行うための施設維持管理と管理運営を行い、区民の生涯学習の振興並びに荒川区における教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。						
対象者等	区民全般・荒川ふるさと文化館利用者等（共有区分 南千住図書館利用者）						
内容	【所在地】荒川区南千住6 - 63 - 1（南千住図書館と併設）【土地面積】2,723.96㎡ 【建物面積】1,499.89㎡【延床面積】5,720.69㎡（文化館2,584.59㎡、図書館2,686.1㎡） 【構造】鉄筋コンクリ - ト地上4階、地下1階 【施設内容】地下1階 収蔵庫（261㎡）視聴覚室（84㎡、45人程度）研修室（53㎡、30名程度）工作室（59㎡） 1階 常設展示室（506㎡）、企画展示室（148㎡）、郷土学習室（84㎡） 2階 調査研究室（40㎡） 4階 事務室（282㎡、図書館共有部分含む） 【開館時間】午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで） 【休館日】月曜日（月曜が祝日・振替休日の場合は開館で翌日休館）館内整理日、年末年始（12月29日～1月4日） 【入館料】100円（区内在住の障がい者とその介護者・65歳以上・中学生以下は無料） 【主な所轄事業】 荒川区に係る考古、歴史、民俗等資料の収集及び保存 常設展示及び特別展示事業（企画展等） 資料に係る専門的な調査研究 文化財の保存及び活用 郷土学習のレファレンス（資料紹介や学習アドバイス、団体見学対応等） 教育、学術及び文化の振興に関する事業（各種講座） 伝統技術の保護と育成（あらかわ学校職人教室・伝統技術展等）						
経過	【工期】建物 H7.10.19～H10.3.31 常設展示 H8.10.1～H10.3.31 【開設】H10.5.1 荒川ふるさと文化館開館（開館時より南千住図書館と一括で施設管理委託） 建物建設費3,113,381,000円 展示製作委託319,300,000円 外構（駐車場・駐輪場等）167,023,500円						
必要性	入館者数だけで当館の評価をするのは不十分であるが、最も入館者数が多かった開館年を除いたH11～14年度とH15～17年度では平均入館者数が1.6倍近く増加しており、当館の存在が区民等に根付いてきたといえる。今後も区民等来館者に荒川の歴史や文化に関心をもち、より深く理解してもらい、郷土愛を育むための施設運営を行う必要性は高い。						
実施方法	（ ● 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ） （ 直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員 ）						
	清掃・警備・受付・エレベ - タ - ・電気工作物保守等委託						

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	予算額	54,185	53,257	53,625	52,470	47,109	49,814	49,354
	決算額（19年度は見込み）	51,484	50,461	49,830	49,728	42,065	45,737	49,354
	人件費					7,757	7,686	
	【事務分担当】（％）					90	90	
	合計（ + ）	51,484	50,461	49,830	49,728	49,822	53,423	49,354
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）	582	617	861	861	774	957	957
	一般財源	50,902	49,844	48,969	48,867	49,048	52,466	48,397
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	文化館利用者数（人）	15,487	16,375	22,143	22,499	21,748	22,138	24,000
	展示室観覧者数（人）	10,856	11,774	17,532	17,981	17,180	17,243	18,000

事務事業分析シート（平成１９年度）

No2

節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）		
	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	
予算・決算の内訳	報酬	非常勤職員報酬	13,618	非常勤職員報酬	12,584	非常勤職員報酬	14,332
	共済費	非常勤社会保険料	1,548	非常勤社会保険料	1,599	非常勤社会保険料	1,744
	報償費	保守謝礼（長刀）	0	保守謝礼（長刀）	0	保守謝礼（長刀）	9
	旅費	資料調査旅費	56	資料調査旅費	165	資料調査旅費	227
	光熱水費	電気・水道料金	7,214	電気・水道料金	7,238	電気・水道料金	8,208
	一般需要費	家屋修繕費	477	家屋修繕費・展示室電球	479	家屋修繕費・展示室電球	1,577
		印刷製本（館だより）	878	印刷製本（館だより）	840	印刷製本（館だより）	1,006
	役務費	電話・清掃手数料	183	電話・清掃手数料	201	電話・清掃手数料	249
		郵便料（切手）	111	郵便料（切手）	133	郵便料（切手）	141
	委託料	建物維持管理業務委託	17,313	建物維持管理業務委託	21,880	建物維持管理業務委託	21,120
		保守（常設展示設備）	124	保守（常設展示設備）	99	保守（常設展示設備）	138
	使用・賃借料	複写機賃借料	209	複写機賃借料	200	複写機賃借料	252
	備品購入費	郷土資料購入	335	郷土資料購入	320	郷土資料購入	340
負担金			研修等参加旅費	0	研修等参加旅費	11	

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値（22年度）	
	文化館利用者数（人）	22,499	21,748	22,138	24,000	25,000	展示室観覧者＋郷土学習室利用者
	文化館展示室観覧者数（人）	17,981	17,180	17,243	18,000	20,000	展示室観覧者数

（問題点・課題）	荒川区内外に、荒川ふるさと文化館の魅力を知ってもらうためにも、現在のＨＰ等周知方法について効果的な方法を検討する。 年々増加するレファレンスに対応する体制づくりが必要。 開設後９年経過し、雨漏り、収蔵庫の不具合等修繕への対応の増加。
	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	ＨＰの内容を工夫して文化館の魅力を宣伝する。18年度に協力を開始したＴＸエクスプレス主宰の、夏休みスタンプラリーを継続して実施し文化館の宣伝効果を上げる。	ＨＰの利用者への効果と、ＴＸエクスプレスの沿線情報誌に伝統技術展ほか随時紹介記事の掲載が可能となるため、新規利用者開拓の効果が期待でき来館者増が見込める。
	マスコミからのレファレンスが増加の傾向にあり、荒川区内外からのニーズも増えているため、図書館とも協力・調整して適切な対応方法を検討し実施する。	各種のレファレンスへの適切な対応により文化館の宣伝効果が期待できる。
	施設の雨漏り等の不具合について、営繕課にも協力を依頼し、早期に原因等を突き止め修繕計画を効率よく実施できるようにする。また電気設備・電気機器等も同様に対応する。	施設の不具合がひどくならないうちに手当てすることにより修繕費の節約が見込める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
C	C	郷土の歴史や文化に親しむ施設を運営するため必要である。

況 議 会 （要 質 問 状）	平成１６年一定 学芸員の活用について（観光の視点で文化館の有能な学芸員の活用と十分な処遇）
----------------------------	--

事務事業分析シート(平成19年度)

No1

事務事業名		荒川ふるさと文化館事業推進費		部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
				担当者名	小坂 潤矢	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）		荒川ふるさと文化館事業推進費（45 - 84 - 66 - 01）					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 19年度 ○ 18年度）			○ 建設事業		● それ以外の継続事業	
開始年度	○ 昭和 ● 平成 10 年度			根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例第1・2条		
終期設定	○ 有 ● 無 年度			法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	○ 計画 ● 非計画		
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]					
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]					
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]					
目的	収集・調査した資料、情報を区民に発信し、区民が郷土の歴史、文化に親しみ、理解を深める機会を提供するとともに、多様な学習ニ - ズに対応する。						
対象者等	区民全般 文化館来館者						
内容	荒川ふるさと文化館の常設展示を補完するとともに、文化財普及・啓発のため下記の事業を行う。 企画展... 年2回開催。会期約2ヶ月間。荒川ふるさと文化館企画展示室においてテ - マに基づいた展示を行う。 入館料については、通常の100円で実施。 平成18年度は、企画展「あらかわとお野菜 都市とお野菜」「杉田玄白と小塚原の仕置場」を実施。 館蔵資料展... 年4回開催。会期約1～2ヶ月。館が所蔵している文化財や、新たに購入した文化財等テ - マを設定し展示する。 子ども向け講座... 子どもが参加しやすい夏休み等に「職人さんと作ろう」等の体験学習や「リトル学芸員」として文化館の仕事を体験。 一般向け講座... 「地域史講座」「古文書講座（初級・中級）」等を開催。講師は荒川ふるさと文化館学芸員。 「文化財講座」... テ - マを設定し、様々な角度からあらかわを探る講座。外部講師により実施。						
経過	1 平成17年度事業... 企画展2回「下町の空想画家 小松崎茂」「あらかわと富士山」 館蔵資料展5回「日本羅紗物語part2おかえり - ラシャ場の絵馬」「あらかわに技あり～伝統工芸品展～」他 夏休み子ども博物館、古文書講座、地域史講座（町屋） 2 平成18年度事業... 企画展2回「あらかわとお野菜 都市とお野菜」「杉田玄白と小塚原の仕置場」 特別展「牧野徑太郎コレクション展」館蔵資料展3回「速報荒川の文化財展」他 夏休み子ども博物館、古文書講座、地域史講座（南千住編） 3 平成19年度事業... 企画展2回「吉村昭氏追悼 彰義隊とあらかわの幕末」「千住大橋鉄橋架橋80周年記念展」館蔵資料展3回「皆川号外コレクション展 昭和編」「文化財速報展」他 夏休み子ども博物館、古文書講座、地域史講座						
必要性	文化館には、郷土文化の振興と発展及び文化財保護活動に貢献し、さらに多様な学習ニーズに対応してきたことによる実績があり、郷土文化・文化財の資料や各種事業のノウハウを必要とするニーズが増えている。今後もさらに多様化するニーズが増える見込みであるため必要性は大きい。 また、「地域史講座」の参加率の高さや「古文書講座」の人気など、区民自らが郷土の歴史を探究するための手法を学ぶ必要性は年々高まっている。						
実施方法	(● 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託) (直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員) ・企画展は展示具・パネル等制作... 賃借資料の輸送等を委託。 ・館蔵資料展、子ども向け講座、一般向け講座などは直営で実施。						

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	予算額	8,902	8,902	7,344	9,098	7,380	8,457	8,675
	決算額(19年度は見込み)	7,913	7,446	6,709	8,723	6,150	6,921	8,675
	人件費					11,205	11,102	
	【事務分担当】(%)					130	130	
	合計(+)	7,913	7,446	6,709	8,723	17,355	18,023	8,675
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)	190	501	501	360	470	513	513
	一般財源	7,723	6,945	6,208	8,363	16,885	17,510	8,162
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	企画展	2回開催	2回開催	2回開催	1回開催	2回開催	2回開催	2回開催
	館蔵資料展	3回開催	3回開催	2回開催	4回開催	5回開催	2回開催	3回開催

事務事業分析シート（平成19年度）

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	企画展講演会謝礼	343	企画展講演会謝礼	336	企画展講演会謝礼	511
	需要費	企画展図録ポスタ -	2,083	企画展図録ポスタ -	2,654	企画展図録ポスタ -	3,274
	役務費	展示品美術梱包輸送	1,060	展示品美術梱包輸送	1,070	展示品美術梱包輸送	1,397
	委託料	展示製作等委託料	2,447	展示製作等委託料	2,784	展示製作等委託料	3,223
	使用・賃借料	展示品賃借・使用料	217	展示品賃借・使用料	76	展示品賃借・使用料	270

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
	企画展示室稼働率（％）		69.06	65.03	62.74	65.80	80.00	企画展示室開館日数 / 文化館開館日数
	各種事業延参加者数（人）		853	669	608	750	1,000	講座・講演会など延参加者数

（問題点・課題分析）	事業の質的な評価を行うため、来館者・参加者の満足度の把握方法の検討。 職員の負担が大きい展示準備の効率化と適切な展示回数及び効果的な企画展の開催の検討。 子ども向け事業の宣伝不足による子ども向けの企画が少ないとの意見有。							
他区の実施状況	（実施 22 区 未実施 0 区）							

問題点・課題の改善策検討		
	平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	来館者へのアンケート等を工夫し、その集計結果を基にした質の向上を目指す。	荒川ふるさと文化館の魅力を向上させる事により、来館者の増加が期待できる。
	時期を選んだ展示（○○の○周年等）や、展示期間を長くする等展示準備の効率化を目指す事により職員の負担を減らす努力をする。	職員の負担を減らすことにより、展示内容の充実を図れる。更に展示期間を長くすることにより来館者の増加が期待できる。
	区報 J r , ホームページ等により現在実施している子ども向け事業の P R を強化し、周知を図る。	子ども向けの企画を宣伝することにより、保護者にも宣伝になり来館者の増加が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
B	B	郷土の歴史や文化に親しむ講座や展示等を提供する事業として優先度が高い。

議会議決（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成１９年度）

No1

事務事業名	千住大橋鉄橋架橋 80 周年記念事業		部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
			担当者名	大林 孝子	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	企画展「千住大橋鉄橋架橋 80 周年」関連事業（45 - 84 - 90 - 01）					
事務事業の種類	● 新規事業（● 19年度 ○ 18年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業					
開始年度	○ 昭和 ● 平成 19 年度		根拠			
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	○ 計画 ● 非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]				
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]				
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]				
目的	19年度は荒川区指定史跡（18年度指定）千住大橋鉄橋架橋 80 周年に当たる。400年以上にわたり松尾芭蕉はじめとする多くの人々の旅立ちを見送った千住大橋の歴史、文化を区内外に広く知らせ、保存と活用を図る。					
対象者等	一般区民・観光客					
内容	上記、目的のため、下記の事業を行う。 ○ 事業名 千住大橋鉄橋架橋 80 周年記念事業 1 企画展「千住大橋・旅・松尾芭蕉を考える」 2 討論会「ディベート 千住大橋の南北を考える 芭蕉はどっちに上がったか！」 3 俳句大会（題例「旅」） 4 史跡巡り「深川・隅田川・南千住」 5 千住～黒羽「奥の細道」バスツアー					
経過	千住大橋は、徳川家康が文禄3年（1594）に架けた橋として知られている。また江戸の境界の象徴的な橋であり、松尾芭蕉がここから「奥の細道」に旅立ったことでも著名である。教育委員会は、400年以上にわたり江戸・東京の歴史を見つめてきた千住大橋を平成18年度区指定史跡とした。現状の鉄橋としても平成19年で80周年を迎え、近代の構造物としても注目されている。					
必要性	千住大橋は、文化財的価値及び観光資源としての価値が高い。観光重点地区の南千住でも、重要な史跡である。80周年を記念した事業として実施することは、区内外に対して荒川区への関心を喚起するために必要である。					
実施方法	（○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託） （直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員） 観光課・区民課・広報課・ACCなど関係各課等、また地域の諸団体と連携し実施する。					

予算・決算額等の推移	(単位：千円)						
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算額							1,253
決算額（19年度は見込み）							
人件費							
【事務分担当量】（％）							
合計（＋）	0	0	0	0	0	0	0
国（特定財源）							
都（特定財源）							
その他（特定財源）							
一般財源	0	0	0	0	0	0	0
実績の推移	事項名						
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費					討論会等講師謝礼	196
	職員旅費					職員宿泊旅費	23
	特別旅費					専門員宿泊旅費	12
	一般需用					消耗品費	60
	役務費					賞状筆耕委託	32
	委託料					会場看板製作委託	284
	使用・賃借料					バス・屋形船借り上げ代	646

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	

（問題点・課題） （指標分析）	（１）荒川ふるさと文化館（社会教育課）の職員のみでは、実施は困難であり、有効な事業とするためには、関係各課の連携が必要である。 （２）荒川区と足立区にまたがる千住大橋に関する事業のため、足立区との連携が不可欠である。						
	（実施区 未実施区）						

問題点・課題の改善策検討		
	平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	荒川区にとって有効な事業であるため、ACC等へ事業を引き継ぎ継続して進められるように努力をする。	南千住を代表する文化財である千住大橋をめぐる歴史・文化を区内外に周知する事業を実施する事は、区の文化財の保護・普及だけでなく、観光の重点地区南千住のPRにも寄与できる。
	これを機に、今後も足立区と情報交換を行い、交流を持ちつつ連携を取れるように積極的に働きかける。	足立区との連携が上手く取れると今後の各種事業にも波及効果が生じる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
—	C	松尾芭蕉に焦点を当て、千住大橋を顕彰するため、十分検討し実施する。

（状況） （要旨） （質問）	
----------------------	--

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	文化財保護奨励費	部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
		担当者名	植田 由記一	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	文化財保護奨励費（45 - 90 - 40 - 01） 保存（45 - 90 - 80 - 01）	文化財保護審議会（45 - 90 - 20 - 01）			映像記録
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 19年度 ○ 18年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	● 昭和 ○ 平成 47 年度		根拠	荒川区文化財保護条例 文化財保護法	
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画 ● 非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]			
目的	区内に伝えられる有形・無形の文化財を区民全体の財産として、その保存・活用のための必要な措置を講じ、区民の文化的向上に資すると共に郷土文化の振興と発展に貢献する。				
対象者等	区民一般 文化財所有者・保持者・団体 文化財保護審議会委員 文化財保護推進委員 土地開発・建築関係業者				
内容	文化財保護推進委員 文化財の保護と啓発活動をする非常勤職員 区民15名で構成 ・隔月推進委員会の開催 ・区内文化財等の調査活動 ・文化財事業の協力 史跡説明板 設置：年1基 修理：随時（予算の範囲内）（平成18年3月末現在 123基） 文化財保護奨励金等の交付 文化財の保護奨励のため、区登録文化財の所有者、保持者及び団体に予算の範囲内で奨励金を交付。また区指定文化財の緊急修理に対して補助金を予算の範囲内で交付。 文化財保護審議会 教育委員会の諮問に対し、答申する。平成19年度 区登録（7件）・指定（2件）文化財を諮問 年中行事・民俗芸能映像記録保存 平成17年度 山車人形稲垣姫組立て 平成18年度 山車人形熊坂長範組立て 埋蔵文化財の調査 「文化財保護法」により、区内周知の包蔵地における土木工事の届出に関する事務処理（都へ進達他）、試掘立会い、本格調査の実施に関する調整事務を行う。				
経過	・昭和47年度 史跡説明板設置開始 ・昭和53年度 文化財調査員（非常勤職員）設置 ・昭和57年度 文化財保護条例施行 ・昭和57年度 文化財保護審議会設置 ・昭和58年度 文化財保護推進員設置 ・昭和60年度 民俗調査開始（～平成9年度） ・昭和62年度 延命院貝塚調査・整理（～平成2年度） ・平成6年度 年中行事映像記録開始 ・平成10年度 荒川ふるさと文化館開館 文化財保護関連事業は荒川ふるさと文化館の担当事務となる ・平成16年度 史跡めぐり・文化財講座等を事業推進費に移行 ・平成18年度町屋四丁目実揚遺跡B発掘調査（1次調査まで実施。平成19年度に2次調査・報告書発行）				
必要性	荒川区の歴史・文化を知るうえで貴重な有形・無形の文化財を、保護し次代に伝えるため必要である。				
実施方法	（ ● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ） （ 直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員 ） 文化財保護審議会（文化財登録・指定の場合） 1．教育委員会事務局内部調査 2．文化財保護審議会に諮問 3．審議・部会調査 4．答申 5．教育委員会決定 6．告示				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算額		8,883	10,905	7,974	7,670	16,809	9,584	7,147
決算額（19年度は見込み）		6,224	8,932	5,893	5,705	16,646	7,994	7,147
人件費						6,033	5,978	
【事務分担当量】（％）						70	70	
合計（＋）		6,224	8,932	5,893	5,705	22,679	13,972	7,147
国（特定財源）		500	3,755	400	350	500	1,600	1,500
都（特定財源）		250	250	200	175	250	800	750
その他（特定財源）		123	166	57	85	76	75	76
一般財源		5,351	4,761	5,236	5,095	21,853	11,497	4,821
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	文化財保護推進委員会	6 回開催	6 回開催	6 回開催	6 回開催	6 回開催	6 回開催	6 回開催
	文化財保護審議会・部会	8 回開催	10 回開催	6 回開催	6 回開催	7 回開催	8 回開催	8 回開催
	指定・登録文化財件数	7 件	11 件	5 件	3 件	8 件	7 件	9 件
	埋蔵文化財調査支援委託	12 件	12 件	10 件	8 件	8 件	10(1) 件	10(1) 件

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報酬	審議会委員・推進員	1,870	審議会委員・推進員	1,817	審議会委員・推進員	2,211
	報償費			文化財緊急調査謝礼	0	文化財緊急調査謝礼	26
	旅費	審議会委員旅費	23	審議会委員旅費	19	審議会委員旅費	45
	一般需用費	消耗品・物品修繕	380	消耗品・物品修繕	312	消耗品・物品修繕	509
	役務費	文化財登録書等筆耕	10	文化財登録書等筆耕	6	文化財登録書等筆耕	11
	委託料	埋蔵文化財調査	883	埋蔵文化財調査	3,168	埋蔵文化財調査	900
		史跡説明板等設置	373	史跡説明板等設置	152	史跡説明板等設置	620
		橋本左内の墓套堂解体移設委託	8,232				
		映像記録保存	498	映像記録保存	489	映像記録保存	499
	賃借料	トラック借り上げ料	59	トラック借り上げ料	61	トラック借り上げ料	61
	交付金	文化財保護奨励金	4,319	文化財保護奨励金	1,970	文化財保護奨励金	2,265

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
	文化財登録件数（総数）	0件 (233)	5件 (238)	5件 (243)	7件 (250)	5件 (265)	毎年登録する文化財数（総数）
	文化財指定件数	3件	3件	2件	2件	3件	登録文化財のうち指定文化財とした数

（問題点・課題）	・登録文化財に諮問する候補については、「寺社調査」「区史編纂」「石造物調査」などで収集した情報から選定しているが、文化館開館後は、展示等事業への対応が主となり、新たな調査のための予算計上も難しいことから、網羅的な調査を行っていない。このため建造物や近代遺産については、東京都の実施している調査の協力調査以上の実態を把握できていない。 平成18年度から、包蔵地内の建築工事の届出が増えており、試掘件数が増加しているが、包蔵地内の工事に関する届出の周知がまだ不十分であるので、さらに周知の努力をする。
	（実施 22 区 未実施 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策検討		
	平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	文化財保護推進委員に情報提供等の協力を更に依頼し情報収集に努め、実態調査の必要度を決めて調査実績を少しずつ増やす。	提供情報の収集により実態調査の必要度を決め、これにより緊急性のあるものから調査するようにできる。
	平成18年度から、包蔵地内の建築工事の届出が増え、試掘等の件数が増加している。各課宛に、「包蔵地内の工事等について」の依頼文を配り周知をさらに徹底する。 また、埋蔵文化財のPRをする。	埋蔵文化財への関心が向上し、包蔵地内の工事に関する届出の周知が徹底する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
B	B	区の有形・無形文化財を次代に伝えるため、必要性が高い。

況議 （要質 旨問 状）	平成16年4定 平成17年3定	「近代遺産の保存と語り部について」 「明治時代のレンガ塀等の文化財指定について」
-----------------------	--------------------	---

事務事業分析シート（平成１９年度）

No1

事務事業名	橋本左内墓套堂復元整備事業		部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
			担当者名	大林 孝子	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	文化財保護啓発費（45 - 90 - 45 - 01）					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 19年度 ○ 18年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業					
開始年度	○ 昭和 ● 平成 17 年度		根拠	荒川区文化財保護条例 文化財保護法		
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	○ 計画 ● 非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]				
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]				
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]				
目的	幕末の志士橋本左内墓套堂を地域の歴史を伝承する文化財として復元し、地域のシンボルとして活用を図る。					
対象者等	一般区民・観光客					
内容	橋本左内墓套堂復元整備事業 橋本左内墓套堂は、小塚原刑場跡（南千住五丁目、区指定史跡）である回向院にあった南千住のシンボリックな建造物であり、平成１７年に回向院の境内整備事業で破棄の危機にあったが、保存活用を求める地元住民の署名活動により、区に寄贈されたものである。 本事業は、全国的にも著名な歴史上の人物ゆかりの文化財を、南千住をアピールする観光資源として、また町のモニュメントとして保存活用するものである。 事業内容は、套堂の復元工事業、活用のための周辺整備事業からなる。周辺整備事業は、観光資源として活用するために、植栽・照明・案内板設置・休憩設備等を設けポケットパークとしての整備を行う（例、荒川総合スポーツセンター西脇）。					
経過	平成１７年１２月の橋本左内墓套堂の寄贈を受けて、平成１８年１月、教育委員会内で経費（８２３万２千円）を確保し、解体工事を実施。荒川ふるさと文化館の仮設施設に保管中。現在、平成１７年度諮問案件であった橋本左内墓套堂の文化財登録は継続審議中であり、文化財審議会委員の助言を得ながら適切な復元保存方法を検討し、区民の要望に対応しうる用地の選定を行っている。平成19年度は、再建に向けて設計委託を実施し、より具体的な再建計画を進めると共に、再建候補地の確保を目指す。					
必要性	橋本左内墓套堂は、区民の保存活用の要望が強く、文化財的な価値及び観光資源としての価値が高い。					
実施方法	（○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託） （直営の場合 ○ 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）					

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算額								5,733
決算額（19年度は見込み）						8,232		5,733
人件費						(再掲)		
【事務分担量】（％）								
合計（＋）		0	0	0	0	8,232	0	5,733
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		0	0	0	0	8,232	0	5,733
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料	橋本左内墓套堂解体移設委託	8,232			橋本左内墓套堂移築復元工事設計業務委託	5,733
		（文化財保護奨励費再掲）					

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値（22年度）	

（問題点・課題）	用地の確保。新たに用地を買収することは財政上困難。保存活用には、駅周辺または幹線道路近辺の公共用地が望ましく、国・都・ＪＲ・東京メトロ関係機関との調整が必要。 既に解体保存している状況にあり、区長に対して地域住民から保存活用を求める署名と請願書が出されている。つくばエクスプレスが開通し、南千住を観光の重点地区として事業計画が進められており、南千住のシンボルを創造することが求められている。平成19年度に橋本左内墓套堂移築復元工事設計を実施し、再建費用の予算要求の準備をする。
他区の実況	（実施区 未実施区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	再開発課等関係課との調整及び協力体制を組めるように努力し用地の確保をする。	関係各課との調整協力体制が整えば、再建費用の軽減も考えられる。
	地域の関心が高い現在、地域の知恵も借り協力して再建を進める。	住民が中心になって再建を進めることにより、文化財保護の意識が高まる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
—	C	19年度に移設場所を確定し、早期の復元を目指す。

議会議決（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名		江戸伝統技術		部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
				担当者名	岩井真吾	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）		江戸伝統技術（45 - 90 - 60 - 01）					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 19年度 ○ 18年度）			○ 建設事業		● それ以外の継続事業	
開始年度	● 昭和 ○ 平成 55 年度		根拠				
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等				
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	○ 計画 ● 非計画		
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]					
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]					
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]					
目的	江戸時代から受け継がれてきた無形文化財である区内の伝統工芸技術を保存継承し、広く区民に紹介する。伝統工芸技術保持者の記録映画制作、作品の購入、作品展示、実演公開を行い、区民の関心を高め、理解を得るとともに技術保持者の後継者育成の意欲促進を図る。						
対象者等	伝統工芸技術保持者 伝統技術展来場者 職人体験道場参加者 伝統工芸技術記録映画視聴者 文化館展示観覧者 学校職人教室実施校児童						
内容	「あらかわの伝統技術展」区内の伝統技術保持者が一堂に会して、作品の展示・技術の実演・来場者の体験コナ - 等を行う。会場 荒川総合スポ - ツセンタ - （平成14年度より） 「学校職人教室」区内の伝統工芸技術者が区内小学校に赴き、技術の実演・解説・児童の体験などを行う。 区内小学校と調整し実施 区指定無形文化財保持者の伝統工芸技術を記録する映画（「伝統に生きる」）制作。昭和60年より実施。 「伝統工芸品購入」区指定無形文化財保持者の作品を購入。原則として記録映画で制作過程を撮影した作品等を購入 「職人体験道場」ふるさと文化館のエントランスを活用し、伝統工芸技術を体験できる教室を実施。						
経過	「あらかわの伝統技術展」昭和55年度より開催 平成17年度第26回実施（12月2日～4日実施） 平成18年度第27回（9月8日～10日開催）・平成19年度第28回（9月7日～9日開催） シンポジウム実施（9月7日サンパール荒川 小ホール） 「学校職人教室」昭和59年度より開催 平成19年度24年目 伝統工芸技術記録映画制作。昭和60年より実施。 平成17年度は、職人の体調不良のため未制作。（累計 / 41本）・平成18年度 竹中重雄（衣装着人形）（累計 / 42本） 「伝統工芸品購入」平成元年より購入 平成18年度購入品（衣装着人形）（累計 / 48点） 「職人体験道場」平成16年度試行 平成17年度より本格実施 平成18年度以降実施継続						
必要性	「あらかわの伝統技術展」伝統工芸技術の素晴らしさを区民に紹介し、理解を深める絶好の機会である。必要性有 「学校職人教室」本区の特徴である伝統工芸技術を児童・生徒の豊かな心を育む教材として活用している。必要性有 伝統工芸記録映画制作 映画上映・貸出等により伝統工芸技術の理解を深める有効な手段になっている。必要性有 伝統工芸品購入 伝統工芸技術は、保持者の死亡等で失われることも多く、技術の記録保存として有効である。また、工芸品を展示等で紹介することにより技術の理解を深めるのに有効である。必要性有 職人体験道場 「あらかわの伝統技術展」「学校職人教室」の他に、伝統工芸技術の素晴らしさを紹介する機会を増やすために実施。必要性有						
実施方法	（ ● 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ） （ 直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員 ） 伝統技術展 荒川区・荒川区教育委員会・荒川区伝統工芸技術保存会・荒川史談会の共催 事務全般は荒川ふるさと文化館 一部委託 技術展会場設営 ・ 記録映画制作						

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	予算額	9,511	14,326	17,310	15,537	15,195	16,728	22,527
	決算額（19年度は見込み）	8,901	16,529	16,323	14,726	12,034	15,438	22,527
	人件費					5,171	5,124	
	【事務分担量】（％）					60	60	
	合計（ + ）	8,901	16,529	16,323	14,726	17,205	20,562	22,527
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）	21	48	19	9	8	5	
	一般財源	8,880	16,481	16,304	14,717	17,197	20,557	22,527
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	「伝統技術展」入場者数	5,000人	8,500人	15,000人	21,000人	12,000人	18,000人	18000人
	「学校職人教室」参加校数	23校	23校	22校	22校	22校	22校	23校
	伝統工芸記録映画（ ）内累計	1本（37）	2本（39）	1本（40）	1本（41）	0本（41）	1本（42）	1本（43）
	工芸品購入（ ）内累計	2式（42）	2式（44）	1式（45）	1式（46）	1式（47）	1式（48）	1式（49）
	「職人体験道場」（ ）内実施回数				23人(4回)	40人(5回)	36人(4回)	40人(4回)

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	伝統技術展・学校職人教室謝礼	2,364	伝統技術展・学校職人教室謝礼	2,222	伝統技術展・学校職人教室謝礼・シンポジウム講師謝礼	4,095
	食糧費	技術展当日賄	238	技術展当日賄	255	技術展当日賄	640
	一般需用費	技術展ポスター制作	1,034	技術展ポスター制作	964	技術展ポスター制作	1,935
	役務費	技術展ポスター掲示委託	1,353	技術展ポスター掲示委託	1,218	技術展ポスター掲示委託	1,493
	委託料	技術展会場設営・映画制作	5,151	技術展会場設営・映画制作	8,867	技術展会場設営・映画制作・シンポジウム委託	12,249
	使用料及び賃借料	技術展会場使用料	1,705	技術展会場使用料	1,264	技術展会場使用料	2,056
	備品購入	伝統工芸品購入	189	伝統工芸品購入	648	伝統工芸品購入	59

指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
		伝統技術展入場者数	21,000	12,000	18,000	18,000	20,000	概数
		伝統技術展参加職人数	74	70	75	75	75	
		学校職人教室参加校数	22	22	22	23	23	19年度から全小学校参加（23校）
		職人体験道場参加人数	23	40	36	40	40	18年度から「夏休みこども博物館」の中で子供向け事業として実施

（指標） 課題 区分	伝統技術展 総合スポーツセンターは区内職人が一堂に会することはできるが、区内外からの来場をさらに促進するには交通の便がよくない 伝統技術の継承には、産業振興の視点が不可欠であり関連部課との連携が不可欠である。 学校職人教室は事前学習が不足すると、児童の興味・関心を引きにくく職人との対話も進まないときがある。
	（実施 6 区 未実施 区 ） 伝統技術展は、他に文京区・北区・葛飾区・江東区・墨田区・練馬区で実施。学校職人教室は全国で荒川区のみ

問題点・課題の改善策検討		
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容		改善により期待する効果
	交通の便が良くない部分は、従来の宣伝のほかに、新聞社、関連ホームページへ積極的に働きかける等の努力をする。更に、荒川ふるさと文化館のエントランスなどで技術展以外に実演・展示の場を確保し伝統工芸にふれる場を提供する等の新たな宣伝機会を工夫する	区内外への早めの働きかけにより、伝統技術展を広範囲に宣伝し、入場者の増加が期待できる。
	産業振興関連の部局と連絡を密にし、職人を初め伝統技術に関する情報を木目細やかに提供していく。	荒川区の伝統技術に関する情報を広く提供することにより、区内外の人々に伝統技術について広く理解と関心をもってもらえる。
	学校職人教室の事前学習については、学校との連絡調整を十分に図り、さらに効果のある事業としていくための意見交換を実施する。	次代をになう子ども達に伝統技術についての関心を持ってもらえる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
B	B	区の伝統工芸技術について理解を深めるため、必要性が高い。

状況（要旨）	
--------	--